



JAPAN HERITAGE

日本遺産

『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」

～ 古代国家を支えた海人^{あま}の営み～

淡 路 市

今回、『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～というテーマで申請していたストーリーが、日本遺産の認定を受けました。認定いただいたストーリーは、現存するわが国最古の歴史書『古事記』の中に描かれた「国生み神話」の醍醐味と神話の背景にある淡路島の重要な歴史をまとめた内容となっており、島の歴史文化の奥深さと大切さを再発見いただけるとともに、島の魅力発信に大きな力になるものと期待しています。

淡路島には、3市それぞれに特色ある歴史とそこから生まれる個性豊かな文化が育まれてきました。それらが日本遺産として一つに結ばれることで、より壮大な魅力あふれる歴史ストーリーを語る事が可能になります。

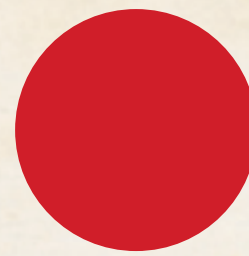
これから、淡路島日本遺産委員会を中心に島内3市、淡路青年会議所、関係機関などが連携を図りながら認定されたストーリーを活かした様々な活動を展開していくことになります。この活動をととして、全国各地はもとより全世界の人々に淡路島の魅力を体感いただけるものと期待しています。

最後に、今回の日本遺産認定にあたりご尽力いただきました関係各位に心より感謝申し上げますとともに、今後ともより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

平成28年 6月 淡路市長 門 康彦



明石海峡と松帆の浦



JAPAN HERITAGE

日本遺産

淡路島のストーリー

平成27年6月に島内3市の商工観光課と教育委員会、一般社団法人淡路青年会議所、兵庫県淡路県民局、一般財団法人淡路島くにうみ協会、一般社団法人淡路島観光協会により淡路島日本遺産委員会を発足し、認定に向けて取り組んできました。そして今年度、「『古事記』の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」～古代国家を支えた海人の営み～」をタイトルとするストーリーが認定されました。

現存するわが国最古の歴史書である『古事記』。3巻からなる書物は、天地が形づくられ国家が誕生する過程を、幾多の神々の姿になぞらえ描いた壮大な神話の世界で始まります。その冒頭を飾る重要な神話が「国生み神話」であり、その中で最初に生まれる“特別な島”として描かれているのが淡路島です。奈良時代に、それ以前の古代国家形成に関わる歴史を振り返り、太安万侶が編纂した『古事記』。その中で、淡路島が“特別な島”として描かれた背景には、そのように描くべき理由があったはずであり、そこには重要な役割を果たした歴史があったはずでした。

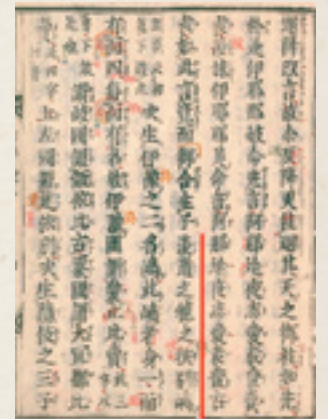
今回のストーリーでは、古代人の世界観や宇宙観までもが描かれているとされる神話の世界の壮大さや奥深さとその中で重要な位置を占める「国生み神話」と淡路島の関係、その神話が生まれた背景にある海人と呼ばれた海の民の活躍とそれによって築かれた島の歴史の魅力、それらが現代の島にどう受け継がれているかが描かれています。

この歴史ストーリーは、島内各地に存在する31件の構成文化財によって語られています。淡路市では、古代国家形成の原点と考えられる弥生時代の五斗長垣内遺跡や舟木遺跡、『日本書紀』に登場する古墳時代の海人の活躍が想像できる貴船神社遺跡や石の寝屋古墳群、海人が活躍した明石海峡と松帆の浦、そして国生み神話ゆかりの地である伊弉諾神宮や絵島など、11件の文化遺産が日本遺産のストーリーを語る構成文化財と認定されました。

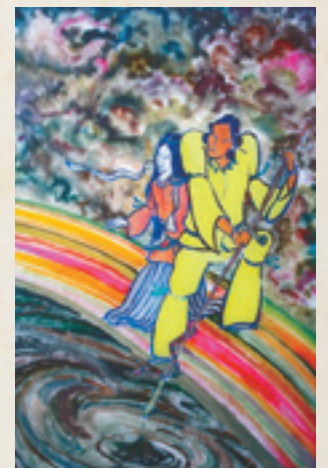
日本遺産 (Japan Heritage) とは

地域に点在する様々な文化遺産を、地域の歴史的魅力や特色を活かしたストーリーで結び、地域が主体となって総合的に整備・活用することによって、わが国の文化・伝統を国内外に戦略的に発信し、地域の活性化・観光振興に結びつけようとするものです。これは、文化庁によって平成27年度に新たに設けられた制度で、文化財版クールジャパンと位置づけられる事業です。

日本遺産は、全国各地の自治体が申請したストーリーの中から、日本遺産審査委員会の審議を経て、国が認定します。本年度は、全国の自治体が申請した67件の中から淡路島3市が申請したものを含め、19件のストーリーが日本遺産に認定されました。昨年度認定を受けた18件と併せて、37件となります。なお、文化庁では、2020年の東京オリンピックまでに100件程度の認定を予定しています。



古事記の記述



国生みのイメージ



海人の塩づくりのイメージ

日本遺産を活かして

本市では、^{ごっさかいといせき}五斗長垣内遺跡の発見以来、地域と協働した文化財の活用に取り組み、様々な角度から文化財活用の可能性について検証してきました。その経験を活かし、歴史文化遺産の保存・活用のマスタープランとして策定したのが「淡路市歴史文化基本構想」です。そこには、歴史文化遺産を活かした地域づくりへの基本的な理念を提示しており、日本遺産認定もそれを実践する事項の一つとして巻頭言に示されているところです。

人口減少社会においては、コミュニティの弱体化が需要の減少を招き、そこから生じる利便性の低下がさらなる地域の魅力低下に繋がる負の悪循環が課題とされ、それを克服できるのは「高次サービスの提供と魅力あふれる地域の個性を発信できるところである」との報告があります。長年にわたる地域の営みの中で育まれた歴史や文化は、他に真似のできないその地域ならではの個性であり、魅力ある地域の宝といえます。歴史文化遺産を活かした地域づくりは、その地域の宝を活かした地域再生への取り組みの一つとなる可能性を秘めています。

今回認定された日本遺産ストーリーは、わが国の重要な歴史書『古事記』の冒頭に位置づけられた「国生み神話」とそれを生んだ島の歴史がテーマとなっています。日本遺産を活かした取り組みを進めることで、わが国の歴史の魅力を淡路島から全国・全世界に向けて発信し、多くの人に島の魅力を知っていただくとともに、地域の活性化・観光振興に繋がることが期待されています。

淡路市の構成文化財



五斗長垣内遺跡(国指定)



木造女神坐像(伊弉諾神宮)
(県指定)



絵島(市指定)

番号	文化財の名称
7	^{ごっさかいといせき} 五斗長垣内遺跡と出土品
8	^{しおつぼにし いせき} 塩壺西遺跡
9	^{ふなき いせき} 舟木遺跡
13	^{いし ね や こ ふんぐん} 石の寝屋古墳群
15	^{はた だ い せき} 畑田遺跡の棒状石製品
16	^{き ふねじん じゃ い せき} 貴船神社遺跡
17	^{ひきの い せき} 引野遺跡
21	^{いざなぎじんぐう} 伊弉諾神宮
24	^{おい し みず} 御井の清水
25	^{あかし かいきょう まつ ほ うら} 明石海峡と松帆の浦
29	^{え しま} 絵島

